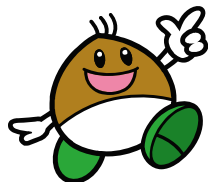


教育研究所たより



令和3年9月3日 NO.88



夏期研修講座ふりかえり

今年度は、参加人数を制限して、2年ぶりの「夏期研修講座」の開催となりましたが、延べ457名の先生方にご参加をいただき、ありがとうございました。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、残念でしたが、後半の講座を中止させていただきました。来年度以降、以前同様に開催できますように願っています。

提出いただいた各講座のアンケートを参考にして、今後も皆様のニーズにお応えできる研修講座を計画して参りたいと思います。

◆ 就学前教育研修講座 ◆

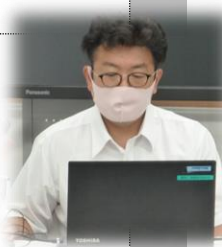
講座 1	開催日	8月4日(水)	会場	危機管理センター	人数	35名
『発達障害児の理解と支援』 ～子どもの内面に寄り添う 丁寧な支援とは～ 大垣女子短期大学 教授 松村 齋先生 	感想	○子どもに寄り添うことや今子どもが待ち望んでいる支援の話などを聞いて、思い浮かんでくる子どもがたくさんいました。共感的理解が大切ということなど、繰り返し、読み直して考えたいと思う点が多くありました。 ○就学前対象ということであったが、小学校でも大変参考になりました。特に“強度行動障害”については、教育に携わる者として責任を感じました。個に応じた適切な支援の大切さを痛感しています。 ○適切な支援、子どもが待ち望んでいる支援とは何か、子どもの立場に立って考えてみる。基本に立ち返り、考えていきたいと自分の保育を振り返り、考え直す機会をいただきました。				
講座 2	開催日	7月27日(火)	会場	危機管理センター	人数	24名
『遊びを通して育てたい力』 ～人生の始まりこそ力強く～ 滋賀大学 教授 奥田 援史先生 	感想	○子どもたちが、楽しい、おもしろい、やってみたいと思える遊びを考えていけないいけないと思いました。しっかり遊びこむことでこれから生きていくために大切な非認知スキルが育つということを念頭に、また9月から保育をしていきたいと思いました。 ○遊びを通して学ぶ事がたくさんあり、非認知スキルが育つことを学び、もっと子ども達にいろいろな遊びや経験をさせてあげたいと思いました。小学校にあがってから、課題や困難に立ち向かえる人となってほしいという気持ちが高まりました。好きな遊びから、友達とのコミュニケーション、協力が増えるので、自由に遊べる時間をたくさん提案していきたいです。 ○小学校につないでいくときの段差のことを考えると、日頃園でしている取り組みに様々な工夫が必要であり、保幼と小学校の連携をしっかりつないでいくことが大切であると改めて考えることができた。子ども達の非認知スキルを育てるために保育者はどのような存在であることが必要なのか学ぶことができ良かった。今後の保育の中で今回学び、考えたことを生かしていきたい。				

◆特別支援教育研修講座◆

講座 3・4		開催日	8月2日(月)	会場	コミュニティセンター治田東	人数	57名
『脳とカラダの苦手さの 理解と支援』 ～感覚統合理論を活用した 支援(遊び)のアイデア～		感想	○本日の講座をうけて、今まで発達障害を持つ子どもたちに自分(私)がいいと思う支援をしてしまっていたなと感じました。子どもの目線に立って困りの本質を見極めるとともに、1つの支援でなく、その子に合った支援を複数提示することが必要だと感じました。 ○自分のクラスの子どもを想像しながら聴かせていただきました。「じっとして落ち着かせる」がゴールではないということ。「学び」をどのようにしたらできるのかと考えていくことが必要と言われ、今やっている「支援」が少しずれてしまっていることも気づくことができました。 ○感覚探求や感覚過敏のある子どもに対して保育者がとるべき考えるべきことについて正しく学ぶことができた。注意してしまうことが多かったが、立ち止まって別の言葉がけや支援ができるようにしていきたい。また、体の土台づくりを就学前でしっかりできるようにしたい。 ○特性を把握し、それに配慮をしながら支援することの大切さを感じました。いろいろなチャレンジやアイデアを教えていただけてよかった。学級の子どもの姿を想像しながら、講座を聞くことができ、夏休みの残りの日々で9月からの実践を考えたいと思います。				
姫路獨協大学	客員教授 太田 篤志先生						
講師							
講座 5		開催日	7月29日(木)	会場	歴史民俗博物館	人数	27名
『通常学級における 支援のあり方』		感想	○講演ありがとうございました。一つ一つの特性を整理するよい機会になりました。「一番困っているのは子ども」この言葉を大切に、早く困りを見つけて、特性に合った支援を一貫して、個々に合った特別扱いができる教師になれるように学びを深めていきたいと思いました。 ○基本的なところから頭の中を整理しながら研修を受けることができました。小学校の話が中心ではありましたが、就学前にも活かせることやつながることもたくさんあり、2学期からの支援・配慮を考えることが出来そうです。個別的教育支援計画についてはいつも頭を悩ませます。「絞ること」がうまくできずにいます。今何が重要かしっかり見ていきたいと思いました。ありがとうございました。 ○個別的教育支援計画、指導計画を書くときに、何となく長くつらつらと書いていたかと思ってしまいました。伝わりやすい指導計画を書かないと意味がないなと思いました。どこを支援していけばいいのか絞ることが大切だということが分かりました。				
栗東市発達支援 アドバイザー 福井 芳彦先生							
講師							

◆保育・教育研修講座◆

講座 6	開催日	8月6日(金)	会場	歴史民俗博物館	人数	19名
『英語口と英語舌で ネイティブの発音!』	感想	○英語力は単語の暗記(or 例文の暗唱)と信じ教えられた世代にとって、リスニングやヒアリングは舌の位置と口の開け方が大切なんだと改めて感じました。個人的にカーペンターズが好きで、授業でもよく聞かせていたこともよかったと自信を持ちつつ、さらに子音の発音を意識して範読したいと思いました。一昨年も受けた講座ですが、とても楽しく有益な研修でした。ぜひ反復練習したいです。 ○前回も参加させていただき、大変面白い講座だったため、今年度も参加させて頂きました。細かい発音を見つめ直す機会になり、大変ありがたく思います。楽しく発音を練習させて頂きました。前回の講座より、トイレではないですが、車で練習しています。 ○本日は貴重な研修をして頂きありがとうございました。リスニングなどで「cars」と「cards」の発音が一緒に聞こえる、「h」の墮落音が原因で何て言っているか分からない等の声が子どもから出てくるので、今日教えて頂いた内容をじっくり1時間とって、毎回 warm up として phonics をやってみようと思います。				
京都外国語大学教授 外国語学部長 倉田 誠先生						
講師						

講座 7		開催日	会場	人数
『子どもが輝く算数授業と就学前から経験させたい数学的思考力について』		7月26日(月)	危機管理センター	16名
講師	滋賀短期大学 准教授 久米 央也先生	感想	○子どもの心が動く授業は常々したいと思っているものの、難しさを感じる日々でした。子の学びたい、知りたい、やってみたいを今まで以上に感じる必要性を感じました。また、園までに培ってきていることをうまく小学校で接続していく大切さも痛感しました。 ○幼児保育では大切なことは「気づき」であることを改めて感じました。子どものやりたいと思う必要感を大切に、学びにつなげられるように保育現場で支援していきたいと思いました。心が動く保育をめざしていきたいです！ ○2時間の中で「やってみたい。なぜだろう。」と、自分の心が何度も動かされました。子どもたちが、日々の授業の中で「～したい。」と思える問いのある授業ができるよう、自分の意識を改善していきたいです。	
				
講座 8		開催日	会場	人数
『栗東市学力調査を基にした中学校における授業改善研修』 ～ドリルパークの効果的な使い方～		8月6日(金)	歴史民俗博物館	18名
講師	(株)ベネッセ コーポレーション 法花 康平先生	感想	○ドリルパークやミライシードの具体的な活用方法について分かりやすく説明いただけてよかったです。ICTが苦手な者も、主体的に活用して、子どもたちの笑顔につなげていきたいです。 ○多角的に分析することが、子どもにより効果的な学習に結び付けることができると納得できました。 ○本校生徒の傾向と課題について参加者と話せたのがとても勉強になりました。ただし、対策については、すぐに答えが出せるわけではなかったため、日々の授業実践の中で考えていきたいと思います。	
				
講座 9		開催日	会場	人数
『9月からの学級づくりに活かせるQ&A相談教室』		8月3日(火)	危機管理センター	29名
講師	大宝小学校 教諭 久泉 嘉章先生 市内小中学校 教務主任の先生方	感想	○子どもを知るために、自分のことをもっと知ってもらうことが大切だなと感じました。これまで、一日一日を乗り越えることで精一杯でしたが、9月から学級力について考えていけるようにしたいです。 ○2学期からは、学級の当番や自分の役割を自覚し、生徒同士が支え合い、学び合う学級を目指したい。教務主任の先生に話を聞いていただいて、気持ちがとても軽くなりました。 ○長い間、学級経営から遠ざかっていますが、久泉先生の講義からいろいろなことを思い出し、人材育成のために自分の経験を活かしていく必要があるということを認識しました。時代も変わり、子どもたちの状況も変化していく中で、自分の経験だけでは追いつかない時も来るので、今後も新しいことを吸収し、そこから学ぶ姿勢が必要だとも感じました。	
				
講座 10		開催日	会場	人数
『これからの学校(教員)に求められるもの』		7月26日(月)	危機管理センター	26名
講師	滋賀大学教育学部 附属小学校 副校長 黒川 俊文先生	感想	○今の自分の年齢層に何が求められているのかを改めて考えさせていただきました。課題を見つけ感じるだけではなく、自分の立場で何ができるのか、先輩方と若手の先生をつなぎ、学校全体がうまく進んでいくように動いていこうと思います。 ○学校を支えていく上で考えなければならない視点が数多くあること、それに対して自分がどのように考え行動していくのかをじっくりと考えた2時間でした。自分が発信者として授業や提案を行い、周囲を巻き込んでいきたいです。 ○今日の講座から、自分は職場でもっと声を上げていく必要があると感じた。自分の力量を伸ばすことだけでなく、周囲を、そして組織の力量を向上させるためにも、コミュニケーションを自ら図るようにしていきたい。そのためにも、日々、授業を見る力を付けたりしていきたい。子どもに火をつけるために、自らに火をつけ努力したい。	
				

講座 11		開催日	8月3日(火)	会場	栗東中学校	人数	10名
『ネット社会の歩き方』 情報モラルセミナー		感想	○様々なネット上にある講座・資料をわかりやすく紹介していただき、子どもたちにネット社会をうまく歩いて行けるヒントをたくさんいただきました。三宅先生の専門的なご指導のおかげで自分の知らなかったこともたくさん知ることができました。子どもたちに意図的・計画的に情報モラルについて指導していけるように努めます。				
講師	 一般社団法人 日本教育情報化振興会 千葉大学教育学部 特命教授 附属中学校副校長 三宅 健次先生		○新しい情報にたくさん触れることができ、学校に戻って活用したいと思いました。実際にクロムブックを使いながら教材作りをして参加者と共有でき、ありがたかったです。ありがとうございました。				
		○情報モラルの教材について、たくさんの資料をもとに教えていただいたので、今後、授業の中で使っていきたいと思いました。特にネット社会の歩き方動画は、短くまとめられていて、子どもたち自身でも学んでいけるものがたくさんあったので、どのように使っていくかしっかりと考えていきたいと思いました。本日はありがとうございました。					
講座 12		開催日	8月17日(火)	会場	オンライン 各学校で実施	人数	157名
『GIGA スクール導入に伴う 活用研修』初級編 ～タブレット(Google)を 活用した授業実践～		感想	○これからクロムブックを授業で活用するための、最低限出来た方がよい技術について知ることができた。特に、Meetなど、相手がいないと試すことのできない機能について知ること、使うことができたのでよかった。				
講師	(株)大塚商会 認定講師 中川 和信先生		 ○テストの作り方やオンライン授業の進め方など、初めて学ぶことが多く、2学期以後の授業やクラスでの学級活動の時間に活かしていきたいです。				
		○夏休みにこのような研修をひらいていただいととても良かったです。パソコンが得意ではないので、すべて分かったというわけではないですが、2学期から使えるようなものがたくさんありました。					

◆一般教育研修講座◆

講座 15		開催日	8月5日(木)	会場	ひだまりの家	人数	39名
『インターネットと人権』 ～子どもを守る大人の役割～		感想	○子どもたちを取り巻く環境が、今まで自分が思っている現状よりさらに深刻であること、大人がどういったことに注意したらよいのかを考えるきっかけとなった。 ○GIGAスクールで1人1台タブレットが子どもたちに渡された今、インターネットやSNSの使い方について、本当に気をつけなければいけないということを改めて感じました。先生がおっしゃっていた「情報の先には誰かがいる」という意識を、自分も子どもたちも持たなければいけないと思います。今後の情報モラルの学習や日々の学習の中で生かしていきたいです。 ○就学前の子どもたちも、スマホやゲームなどをたくさん知っている、やっている現状があるので、適度なつきあい方ができるように、保護者啓発にも取り組んでいきたい。				
講師	京都ノートルダム 女子大学 教授 神月 紀輔先生						

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記の3講座を中止させていただきました。

○『子どもたちの自尊感情を高めるライフスキル教育演習』

ライオンズクエスト認定講師：寺本 之人 氏

○『問題の所在はどこか?』～L/G/B/T'sの子どもたちの存在が問いかけられるもの～

京都府立高等学校教諭：土肥 いつき 氏

○『部落差別(同和問題)の解決をめざすために』

大阪多様性教育ネットワーク共同代表：土田 光子 氏

栗東市立教育研究所 520-3088 栗東市安養寺一丁目13-33 栗東市教育委員会事務局内

TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149

E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp

